

北社会ニュース 第53号

2009年4月20日

発行者：鈴木壮夫

(1) 本日、第271回 北社会

講師：田中秀穂氏（高12回）（株）ガーデン二賀地・代表（仙台市青葉区上愛子）

テーマ：『樹の健康・人の健康』

“講演趣旨の一部です”で初まるB4用紙に墨痕鮮やかに書かれた田中氏のお便りを下記に紹介致します。

○樹が自然に枯れてきた・・・人は言う。自然なら枯れないのです！屋久島の縄文杉七千年（推定）今も生き続けている。なぜか？

○山手線の駅構内の軌道敷を土を使わずに緑化する。現在、試験植栽に入った。どうやって??

○建築後37年、野ざらしの鉄骨から錆が消えた。そんなバカな???

これから新しい常識が次々と出廻ります。

地球の居心地を良くしておかないと孫子の代まで継がらない・・・

そんな思いもあってか、生命体である植物を通して一つ一つ多くの実践・実証することが出来まして、今更ながら大変ラッキーでした。

同窓であるが故、同じ思いを大兄諸氏と分かち合い、新しい常識を次々と創って行きたいものです。もとより浅学非才、御理解をいただけるような内容にはならないと思いますが、慈悲寛大な目お付き合いを賜りますようお願い申し上げます。

で

樹木医

田中秀奉

《樹木医》とは名木・古木など樹木の保全のため診断・治療にあたる専門技術者と広辞苑は説明しております。芽吹きが本当に美しい季節です。北社会としても初めてお聞きするテーマだと思います。新しい常識についていける精神を呼び戻して～難しいことですが～楽しんで下さい。

(2) 来月の北社会 開催日：5月18日（月）

講師：和賀井敏夫氏（中42回）

テーマ：「共学化三年目の母校・創立記念日講演を終えて」～仮題～

二高の創立記念日である5月1日、和賀井先生は母校で生徒・教師・PTA・同窓会等関係者1200人にご専門の超音波診断をご講演されます。先生は1924年のお生まれです。生徒達はそれからほぼ70年後の1992～94年生まれの曾孫のような後輩達、而も和賀井先生は戦後母校を訪問されるのは初めてとか。私は先週木曜日、母校を訪問、庄司校長先生とお会いしました。お迎えする準備万端に抜かりはなく、皆さん楽しみにされておりました。和賀井先生の母校訪問印象記北社会でも楽しみです。

(3) 4月16日 二高のサクラは散らずに私を待っていてくれました。

今年の仙台のサクラ開花は8日、三日間で満開と聞いていたので、16日は散っているだろうなと期待しないで新幹線に乗りました。もうすぐ仙台とのアナウンスを聞いて、居心地の悪いやまびこの一階車両から階段を上り、ドアの側に立った。一高のグラウンドが見えてきた。校庭の周囲にサクラが散らずに咲いていた。市内のケヤキ並木はほんの少し芽吹いていた。仙台滞在七時間で川越に戻りましたが、お伝えしたいこと(?)を記しますのでどうぞお付き合い下さい。

(A) 仙台行きの主たる目的

我々、高11回生は還暦を迎えた2001年から毎年、同期情報紙を発行し続け、今年は第9号～卒業50周年記念号～を今月末製本完了して、住所判明者268名に郵送予定です。今回は47名の寄稿文が届きました。その原稿を持参し仙台で印刷会社を経営している同期生に渡し、編集～印刷～製本～発送の打ち合わせが主たる目的でした。

一番大変だったのは表紙に使う写真だったと聞きました。写真好きの同期生に頼んで、二高の全景を西公園から撮って欲しいと注文しました。道路・建物等々が障害になり、なかなか良いアングルがない。高層マンションの住人に頼んで部屋に入って撮ったこともあったとか。結局、サクラが咲いた校門の写真に決めましたが、N君は8～9日間、二高の周辺をカメラ持参で歩き廻ったとか。ご苦労さんでしたと深々とお礼しました。

(B) 二高・庄司校長先生と約一時間懇談。(4月16日)

この3月まで J SPORTS に勤務していた同期の目黒君がWBCの中継のため28名を率いてロスに最後の仕事で出張した。ドジャースタジアムでの試合中のファールボールを数個買って(?)きた。その内の一個を二高の硬式野球部に届けて欲しいと頼まれた。利府高が勝ち進んでいた時期だった。“利府高がやれること、二高もやれる”とハッパをかける!と。本日、北社会の受け付けに置いてあったのは私が貰ったボール。二高は4月8日に新学期が始まった。5月9日の対一高定期戦に向けて応援練習も開始された由。三年生の男子の団長と二年生の男女各一人、合計三人の応援団だそうです。三高は今春から共学になり、女子が約四割を占めたそうです。一女(現・宮城一高)の男子は20人台から30人台に微増。来年は一高も共学になり、而も学区制がなくなり全県一区に。それから、卒業生の進学先は東大・15/京大・6/一橋・10/東北大・86等々と全国展開になってきた。来年は共学第一期の女子が卒業する、難関大学への合格者数は増えるだろうと校長は話されておりました。

イトンカレッジとの国際交流記録の小冊子をいただいた。面白かったのはホームステイ受入先の家庭の保護者と生徒の感想。親の仕事で海外で生活経験のある生徒は“感覚を思い出し”結構流暢に会話していた。ほとんどの生徒は最初は不安だったがやればそれなりに通じると。保護者達はよく躰けられたイトンの生徒達の生活態度を褒めている。

グローバルな発展に繋がったと多くの人が好評価している。失敗を恐れず積極的に自分の意志を相手に伝えることの大切さを学んだ生徒も。夕食時「日本の天皇の名前は？」と聞かれ誰もが答えられなかった家庭もあったとか。国際交流はドンドンやればよいですね。